

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第83号

2018年4月2日

<http://www.australianstudies.jp/>

1. オーストラリア学会 2018年度全国研究大会のご案内

開催日： 2018年6月9日（土）・10日（日）

会 場： 筑波大学筑波キャンパス （〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1）

交通アクセス

・大学へのアクセスについては大学 HP「交通アクセス」

（http://www.tsukuba.ac.jp/access/tsukuba_access.html）をご覧ください。なお、会場へのアクセスは、下記の①または②がおすすめです。

会場場所：〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1 総合研究棟 A1階

①つくばエクスプレス (TX) つくば駅 (地下) 到着後、地上のつくばセンターバスターミナル 6 番乗り場から、「筑波大学中央」行きのバス、または「筑波大学循環」(左回り) バスに乗り、「筑波大学中央」バス停で下車 (つくばセンター～筑波大学中央までの所要約 20 分)。会場の総合研究棟 A はバス停から徒歩 1 分です。なお、「筑波大学循環」(右回り) バスでも筑波大学中央を通りますが、遠回りのため所要時間が 10 分以上長くなるため、おすすめしません。

(つくばセンター6 番乗り場バス時刻表 http://kantetsu.co.jp/bus/timetable_files/center/center06.pdf)

②東京駅八重洲南口バスターミナル (2 番乗り場) から、常磐高速バス「筑波大学中央」行きのバスに乗り、終点の「筑波大学中央」バス停で下車。会場の総合研究棟 A はバス停から徒歩 1 分です。

(東京駅 2 番乗り場バス時刻表 http://kantetsu.co.jp/img/bus/highway/tsukuba_tokyo/timetable.pdf)

学内には駐車場 (1 日 400 円) がありますが、事前申込み制です。お車での来学を希望される方は、必ず同封の返信用はがきで事前にお知らせくださるようお願いいたします。学会当日の対応は出来かねますのでご了承下さい。

◆ 出欠：全国研究大会参加の有無にかかわらず、同封の返信用はがきに必要事項をお書き込みのうえ、5 月 31 日 (木) までに届くようにご投函ください。

◆ 昼食：両日とも、控室にサンドウィッチ等の軽食を用意します (60 人分程度)。会場周辺の徒歩圏内には食堂やコンビニがありません。しっかり食べたい方は、ご自身で昼食をお持ちいただくことをおすすめします。

◆ 懇親会：懇親会費は 5,000 円 (学生会員 4,000 円) を予定していますが、多少変動することがあるかもしれませんので、その節はご容赦ください。懇親会費は当日大会受付で申し受けます。なお、懇親会への参加は、必ず同封の返信用はがきでお知らせくださるようお願いいたします。

※『豪日交流基金 (A J F) 助成企画 The Past and Present of Australian Studies from Japanese Perspectives (その 1)、(その 2)』は、豪日交流基金によりオーストラリア政府外務貿易省の助成を受けています。

□ 第1日目 6月9日(土)

□

- 10:00~12:00 理事会(総合研究棟 A205 室)
- 13:00 受付開始(総合研究棟 A 1F ロビー)
- 13:30 開会セレモニー(総合研究棟 A110 公開講義室)
司会 佐和田敬司(オーストラリア学会副代表理事・早稲田大学)
開会挨拶 鎌田真弓(オーストラリア学会代表理事・名古屋商科大学)
開催校挨拶
オーストラリア大使館・豪日交流基金よりご挨拶
- 14:00~14:45 特別講演(豪日交流基金助成)(総合研究棟 A110 公開講義室) ※同時通訳あり
“Diplomatic Interventions: Aboriginal Performance on the International Stage in the 21st Century”, ヘレン・ギルバート(東京大学アメリカ太平洋地域研究センター客員教授/ロンドン大学教授)
- 15:00~17:30 豪日交流基金(A J F) 助成企画「The Past and Present of Australian Studies from Japanese Perspectives」
(その1) “Contemporary Transformation of Australian Economic Geography”(総合研究棟 A110 公開講義室) ※同時通訳あり
報告者:ケヴィン・オコナー(メルボルン大学名誉教授)
南出眞助(追手門学院大学)
吉田道代(和歌山大学)
堤 純(筑波大学)
コメンテーター:谷内 達(東京大学名誉教授)
質疑応答
- 18:00~20:00 懇親会(筑波大学第二エリア 2B 棟 1F Cafe MARHABAN)
※懇親会終了後、つくばエクスプレストくば駅までチャーターバスが出ます。

□ 第2日目 6月10日(日)

- 08:45 受付開始(総合研究棟 A 1F ロビー)
- 09:00~10:45 一般個別研究報告(総合研究棟 A110 公開講義室)
- 10:45~11:00 Coffee Break
- 11:00~12:00 テーマセッション(総合研究棟 A110 公開講義室)
- 12:00~13:00 昼食休憩(総合研究棟 A107 室) / 理事会(総合研究棟 A205 室)
- 13:15~13:45 総会(総合研究棟 A110 公開講義室)
- 14:00~16:50 豪日交流基金(A J F) 助成企画「The Past and Present of Australian Studies from Japanese Perspectives」
(その2) 「1988 年をふりかえる: 入植 200 周年以降の先住民・非先住民関係」(総合研究棟 A110 公開講義室)
報告者: 栗田梨津子(広島大学)
津田博司(筑波大学)
一谷智子(西南学院大学)
討論者: 窪田幸子(神戸大学)
藤川隆男(大阪大学)
加藤めぐみ(明星大学)
質疑応答
- 16:50 閉会挨拶



2. 2018年度オーストラリア学会特別講演・シンポジウム・特別企画 概要

特別講演

“Diplomatic Interventions: Aboriginal Performance on the International Stage in the 21st Century”

Helen Gilbert

This presentation examines the workings of cultural diplomacy in the arts by canvassing recent Aboriginal Australian performances that have been staged in international venues in connection with festivals, exhibitions and other cross-cultural initiatives. It explores not only the ways in which indigenous embodied arts have been harnessed to celebrate Australia’s achievements (at home and abroad) while promoting particular institutions and events, but also how Aboriginal performance-makers strive to shape their own cultural and artistic encounters with diverse audiences. Case studies to be discussed in brief include Big hArt’s presentation of Namatjira in London in 2013, Marrugeku’s tours of Gudirr Gudirr to Europe (2013–14) and Toronto (2015) and the staging of Jack Charles V the Crown in Shizuoka (2017). Keeping in view the limitations of the ‘culture-as-resource’ model (Yúdice) in promoting cross-cultural dialogue, I consider the performances at issue as making compelling invitations to their audiences to see, sense and understand the challenges facing indigenous societies today and to acknowledge their root causes in European colonialism. Such invitations can be seen as part of an emergent trans-indigenous public sphere where (soft) diplomacy is being reimagined as a grass-roots activity. At the broader level, my research seeks to illuminate ways in which performative acts and aesthetics sustain indigenous cultures within, against and beyond the forces of the neo-liberal market place.

Helen Gilbert is Professor of Theatre at Royal Holloway, University of London, and author/co-author of several influential books, notably *Performance and Cosmopolitics: Cross-Cultural Transactions in Australasia* (2007) and *Postcolonial Drama: Theory, Practice, Politics* (1996). From 2009–14, she led a transnational European Research Council-funded project on indigenous performance across the Americas, the Pacific, Australia and South Africa. Her many edited books include *Recasting Commodity and Spectacle in the Indigenous Americas* (2014) and *In the Balance: Indigeneity, Performance, Globalization* (2017). She recently completed a fellowship at the Rachel Carson Centre for Environment and Society in Munich, supported by a Humboldt Prize, and is currently the visiting Chair of Australian Studies at the University of Tokyo for the 2017–18 academic year.

豪日交流基金 (AJF) 助成企画その1

The Past and Present of Australian Studies from Japanese Perspectives
“Contemporary Transformation of Australian Economic Geography”

第一報告者のメルボルン大学のオコナー名誉教授は、近年の国際コンテナ物流の変化とオーストラリアとアジア各国との航空旅客流動の変化の2つの視点から、オーストラリア経済のアジアシフトの動向について報告する。続いて追手門学院大学の南出教授は、グローバルな経済状況の変化が、具体的にオーストラリアの港湾取り扱い貨物にどのような変化を与えたかについて報告する。第三報告者の筑波大学の堤准教授は、オーストラリア経済のサービス産業化の傾向について報告する。最後に、第四報告者の和歌山大学の吉田教授は、新規移民（主として2000年以降）の急増にともなう現代オーストラリア社会の新しい動向について報告する。東京大学の谷内名誉教授は4者の報告についてコメントし、合わせて、フロアからの質問などを整理しながら現代オーストラリアの経済地理について総括する（企画担当者：堤 純会員）。

豪日交流基金 (AJF) 助成企画その2

The Past and Present of Australian Studies from Japanese Perspectives

「1988年をふりかえる：入植200周年以降の先住民・非先住民関係」

2018年は、オーストラリアという国家の成り立ちについて様々な反響を呼んだ入植200周年から、30年の節目にあたる。植民地主義や人種主義と結びついた「建国」に対する社会的関心の高まりとともに、過去および現在における先住民の経験をめぐる議論は、新たな段階を迎えることとなった。本シンポジウムでは、先住民史、非先住民史、その両者を横断する文化・芸術という三つの視点から、1988年から現在に至るまでの先住民をめぐる事象を回顧する。先住民史について人類学の立場から広島大学の栗田梨津子助教、非先住民史について歴史学の立場から筑波大学の津田博司助教、文化・芸術について文学の立場から西南学院大学の一谷智子教授が報告を行い、それぞれの分野からの応答として神戸大学の窪田幸子教授、大阪大学の藤川隆男教授、明星大学の加藤めぐみ教授が討論に参加する（企画担当者：津田博司会員）。

3. 2018年度オーストラリア学会全国研究大会 一般個別研究報告者および報告要旨

9:00~12:00 総合研究棟 A110 公開講義室

司会 山内由理子（東京外国語大学）

（報告1）「オーストラリアのワーク・ファミリー・バランスについての一考察—雇用形態に着目して—」

澤木朋子（明治大学大学院博士後期課程）

（要旨）日本では、女性に出産後、労働市場へ復帰してもらうための有効な政策として、育児休業制度や時短制度などがある。これらを利用し、仕事と育児の両立を図ることで職場復帰をすることが理想とされているが、現実には厳しく、現状の労働環境では、仕事か育児かのどちらかを選択せざるを得ない労働者が数多く存在する。

一方で、オーストラリアでは、多くの女性が出産後、職場復帰を果たしている。その要因の一つとして考えられるのは、雇用形態の違いである。そこで、本報告では、オーストラリア労働者がいかにして仕事と育児を両立させているか、雇用形態に着目し考察する。

（報告2）「ケン・フライ議員と東ティモール問題」

木村友彦

（要旨）フライ（Ken Fry: 1920-2007）は、キャンベラ北部のFraser（現Fenner）選挙区選出の連邦議会下院議員を、1974年から1984年までの約10年間、3つの政権にまたがり務めた、労働党左派の人物である。フライは、自伝の題名A Humble Backbencherにも示されるように、労働党政権の際にも閣僚就任はなかった。しかしフライ議員は、インドネシアによる東ティモール軍事併合と、それを追認するオーストラリアの外交政策に異議を唱え、その民族自決や独立を擁護する運動の歴史では、名を残すような活動を行ったのである。

（報告3）“Towards a framework for comparing Australian and Japanese politics and political culture—2”
（「日豪政治文化の比較構成をめぐる一考—その2」）

Professor Donna WEEKS（ドナ・ウィークス）（武蔵野大学）

（要旨）This paper is the first stage in a new project to develop a new framework for comparing the politics and political cultures of Japan and Australia. The preliminary report (at the 2017 Conference) identified parliamentary systems, electoral systems, party systems and regional identities and security as potential points of comparison. This paper seeks to explore concepts of political culture and how they might be applied in this new framework and takes as its starting point political developments in the 1890s.

The study aims to bring a renewed understanding of the political relationship.

2017年度全国研究大会に続き、日本とオーストラリアの政治文化を検討する。今回の報告はまず、「政治文化とは何か」をはじめ、日本とオーストラリアの政治体制の共通点を考慮する。前回発表した通り、それぞれの二院制度、政治体制、選挙制度、女性政治家、地域安全保障の仕組みなどを含む点でもあるが、仮説として、両国の現代政治文化の基礎は1890年代にあるかを検討する。オーストラリアの場合は憲法

討論が行われ、日本も明治時代による海外派遣者が世界の各国の政治体制の情報を収集し、両国は同時に（新しい）国家建国を討論した。この仮説を明らかにするため、日本からオーストラリアに派遣された一人の探検者の経験を本報告で注目し、1890年代の政治文化にとっての重要性を再考する。

この研究の目的は、日豪両国の政治的関係に関する新たな理解をもたらすことである。

(報告4) “Changing relationship between Japan and Australia: Strategic Partners for the 21st Century”
(「変化する日豪関係：21世紀の戦略的パートナー」)

Dr Thomas WILKINS (シドニー大学)

(要旨) This paper analyses the remarkable political, economic, and strategic developments in the Australia-Japan ‘Special Strategic Partnership’. Since the term ‘strategic partnership’ was first used to describe an augmented relationship between Canberra and Australia in 2005, bilateral relations have taken on a new character, not seen before. In recent years Australian leaders has been strikingly supportive of PM Abe’s domestic efforts to enhance Japan’s international profile through ‘a proactive contribution to international peace’ and new ‘Peace and Security Legislation’. The signing of the long-awaited Japan-Australia Economic Partnership Agreement (JAPEPA) opened the way for deeper commercial interactions and joint projects, particularly relating to energy security. Whilst the 2007 Joint Declaration on Security Cooperation (JDSC) has been consistently reinforced by logistics, information-sharing, and defense cooperation arrangements. Taken together these represent a significant diplomatic achievement for both parties, helping them overcome historical discord, bring their peoples closer, and face the future together in an ever more challenging and uncertain regional environment. Informed by International Relations (IR) theories, and a new inter-disciplinary framework for analysis created by the author, drawn from Organization Studies, this paper interrogates the nature, purpose, dynamics and prospects for this new form of (‘non-alliance’) alignment between the two parties. It concludes that the ‘strategic partnership’ is a new model to facilitate joint cooperation across a range of security and non-security issues more suited to a rapidly evolving regional landscape than the traditional military alliance paradigm.

10:45~11:00 Coffee Break

(報告5) “Survey of Trends in Australian Studies and Education in Japan”

石井由香 (静岡県立大学)

(要旨) オーストラリア学会は、豪日交流基金の助成により、2017年秋に日本におけるオーストラリア研究・教育の動向に関する調査を実施した。その分析結果を報告する。主な内容は、(1) 日本でオーストラリア研究に関わる内容を含む授業が実施されている大学・大学院および授業の科目名と内容、(2) オーストラリアの大学と日本の大学との公的な連携関係、(3) 公的な研究・教育交流協定などによるオーストラリアの研究者の日本の大学での受け入れ状況、(4) 日本のオーストラリア研究者によるオーストラリア研究に関わる研究プロジェクトの内容、である。

(報告6) “Out of the *Incognito*: Australian Studies in China”

Professor CHEN Hong (華東師範大学)

(要旨) Australia had remained incognito in China until the late Qing Dynasty, when incipient interest had trickled throughout China's warring decades. The translation and criticism of Australian literature after 1949 gathered momentum with the impetus of the geopolitical alignment of that time, which in effect developed into more serious introduction and academic research. Studies of aspects of Australia blazed its own path to become systematic and wide-ranging in the late 20th century, developing into an academic discipline in the new theoretical lights in the 21st century. This presentation is the outcome of years of cultural archaeological study of the historiographical archives of studies of Australia that had been translated, (mis)interpreted and (mis)understood in China, aiming to discover the logicity and rationales belying the course of the now robust development of Australian Studies in China.

5. 第12回地域研究会（関東例会）の報告

佐和田敬司（早稲田大学）

2017年10月21日（土）に慶應義塾大学三田キャンパスにて、関根政美会員（慶應義塾大学名誉教授）を迎え、第12回地域研究会（関東例会）を開催した。報告、「トランプ・ハンソン時代の多文化社会オーストラリアの政治」においては、オーストラリアを含む先進国でのポピュリズムの台頭は、既成政党に満足できないひとびとによって支えられていること、それは移民の受け入れ拡大と多文化主義の導入、新自由主義的経済改革と国民の不満や生活不安の拡大、そしてテロリズムの発生などを背景としており、それによって多文化主義が冬の時代を迎えていることが論じられた。リベラルで民主主義的な多文化主義の導入がポピュリズムの台頭につながり、結果として多文化主義自体が否定されるというパラドックスがあるという議論は興味深く、関根会員の報告後は特にその点に関し参加者を交えて活発な議論が行われた。

6. 第13回地域研究会（関東例会）のお知らせ

※会員以外の方も参加できます。入場無料。

以下の日時・場所にて関東例会を開催します。

共催：科研「批判的地域主義に向けた地域研究のダイアレクティック」

（代表 小川英文）、東京外国語大学・海外事情研究所

日時：2018年6月23日（土）13時～

場所：東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学 早稲田キャンパス（教室未定）

※教室については学会HP、フェイスブックで告知します。

連絡先：山内由理子 yuriko.yamanouchi@tufs.ac.jp

佐和田敬司 ksawada@waseda.jp

題目：シンポジウム「ポストファクト時代における Globalizing reconciliation のゆくえ」

趣旨：ヒト、モノ、表象の流動が常態となり、物事を支えてきたはずの「ファクト（事実）」自体の根幹が見えにくくなっている現在、「和解（reconciliation）」をどのように考えればよいのであろうか。「ポスト・モダン」と言われた時代に論じられてきた問題群は決して「解決」されたわけではない一方、これまでとは別の形で我々に突きつけられている。このシンポジウムでは、かつて保苺実も言及していた「和解」の問題を「ポスト・ファクト」の文脈に引き直し、原子力・核・先住民・ネット右翼、アート、ポピュラーカルチャーなどの具体的な領域に根差して問題意識を共有する足掛かりとしたい。

7. 会費納入のお願い

年会費の請求は年度の始まり4月に行いますが、年会費が納入されると、納入時期にかかわらず未払い年度がある場合そこへ充当されます。たとえば2018年5月に年会費を納入しても、2017年度未払いの場合、それは2017年度の会費となります。すなわち、2018年度は未納ということになります。また2016、2017年度未払いの場合、2016年度分の会費納入になります。

<2017年度分会費及び会費が未納の会員の皆様へ>

会費が未納の皆様へは、請求を別便にて送付します。未納年度分（2017年度を含め最多3か年）を速やかに振込票にて納入願います。未着のかたはアカデミーセンター「オーストラリア学会」担当までお知らせ願います。なお、会費振込票に会員名の記載がない場合、振込会員を特定できないため、必ず会員名をお書きください。また原則領収書は発行していません。郵便振替票の受領書などをご利用願います。

会費未納の会員の皆様に関しましては、当該年度の会費納入が確認され次第、学会誌『オーストラリア研究』（現在2018年3月発行、第31号）までをお送りしております。事務局では3か年分の在庫を保管しておりますので、順次発送しておりますが、お手元に届くまで若干時間がかかる場合もあります。会費納入にも関わらず未着の学会誌がありましたら、恐縮ですが、学会事務局（アカデミーセンター）にご連絡ください。

8. 『オーストラリア研究』 投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿はいつでも受け付けております。投稿を希望する会員は、早めに編集担当理事・加藤 (kato@sw.meisei-u.ac.jp) にご連絡ください。投稿に関する詳細は、学会ウェブサイト、「投稿要領」(2017年5月1日一部改訂)をご参照ください。次の第32号の投稿締切は2018年8月31日です。

第31・32号に掲載された論文は「第3回オーストラリア学会優秀論文賞」の対象となりますので、奮って投稿してください。また第12号以降、会員の研究文献目録を継続して掲載しています。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などのなかから、オーストラリア学会の趣旨に関する目録未掲載の研究文献を選び、お知らせください。32号の締切は2018年10月30日です。編集作業の都合上、電子メールをご利用ください。記入例はバックナンバーを参照し、必ず掲載書式に準ずる形でお送りください。

投稿先: 〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター オーストラリア学会担当
TEL: 03-5937-0249, FAX: 03-3368-2822, Email: asaj-post@bunken.co.jp

9. 新刊書のご案内

塩原良和『分断するコミュニティ—オーストラリアの移民・先住民政策』 法政大学出版局 (2017年10月刊行/A5判/200ページ/2,200円+税)
多文化社会の現実を前に問われるシティズンシップの理念—自己責任論を振りかざす新自由主義的な政策は深い社会的分断をもたらすと現地調査に基づき警鐘を鳴らす。(本書帯より。)

上智大学アメリカ・カナダ研究所・イベロアメリカ研究所・ヨーロッパ研究所編『グローバル・ヒストリーズ—「ナショナル」を越えて』上智大学新書009 ぎょうせい (2018年2月刊行/A6変型判/332ページ/1,200円+税)
内容紹介: 国境で分けられた地図が描き出す世界は、私たちが住んでいる世界のリアリティをどこまで投影しているだろうか。従来の一国史・一地域史的な歴史観にとらわれず、新たな視点で世界史認識を拓くグローバル・ヒストリー入門書。(裏表紙より)

10. 会報電子化のお知らせ (再掲)

このたび、オーストラリア学会では先の第82号より会報を電子化いたしました。ただし、本号など学会直前号は他の配布物と併せ紙媒体での発行を当分の間継続します。会報電子版は学会ホームページに掲載されますが、発行のお知らせについては「マイページ」に登録されています電子メール宛てとなります。アドレスの登録・確認・更新をお願いいたします。

【諸届出/連絡先】

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター オーストラリア学会 担当
TEL: 03-5937-0249 FAX: 03-3368-2822 Email: asaj-post@bunken.co.jp

【オーストラリア学会事務局】

〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20 成城大学経済学部 花井清人研究室気付
TEL 03-3482-9403 E-mail: khanai@seiyo.ac.jp
会費振込先: 00190-3-157063 加入口座名: オーストラリア学会

※ 本会報は学会記録のほか、会員からのご意見や著書・新刊情報などを掲載します。学会事務局までお送りください。なお紙面の制約上、掲載できない場合がありますことをご了承ください。

【編集担当: 濱野健 (北九州市立大学) / 編集協力: 藤岡伸明 (静岡大学)】